

日独ベラルーシ経験共有

チェルノブイリから28年 ベラルーシの経験とドイツの市民活動

2014年4月26日、チェルノブイリ原発事故から28年を迎えます。

4月12～20日まで、ベラルーシの団体「チェルノブイリの子どもたち」と、そこと連携し支援してきたドイツの小さな町（ロットヴァイル）の団体「核の脅威のない世界のための市民団体」から12名のメンバーが来日します。多彩なバックグラウンドを持つメンバーと、下記のように講演・意見交換会を開催します。

【日時】 2014年4月15日（火）14：00～17：00
（13：40より通行証配布）

【場所】 参議院議員会館102（最寄：永田町、国会議事堂前）



【内容】

1．チェルノブイリ原発事故の経験

- ・リュドミラ・マルシュケヴィチ： 当時の状況と経験、糖尿病の子どもたち支援について
- ・マリア・プラトコフスカヤ： 当時の状況と経験、問題をかかえた子供たちの支援について

2．事故後に育った若者たち：保養・健康管理の実態

- ・ドイツに住む20代のベラルーシ人より、
自らや家族の体験と、支援団体「チェルノブイリの子どもたち」について

3．ドイツより、草の根の市民運動

- ・アンゲラ・ゲスラーほか： 1986年より活動する「核の脅威のない世界のための市民団体」
- ・20代のドイツ人より市民団体や若者の活動について
- ・ユッタ・ガウクラー： 市民発のソーラーコンプレックス社とエネルギーシフト

言語は日独逐次通訳で行います。

コメンテーター

- ・吉田由布子（「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク） 依頼中
- ・佐々木真理（チェルノブイリ子ども基金）
- ・パルシステム神奈川ゆめコープ組合員の方（保養の実際について）
- ・満田夏花（国際環境 NGO FoE Japan）
- ・文部科学省、復興庁

ほか、会場の参加者をまじえ質疑応答をおこないます。

司会： 吉田明子（国際環境 NGO FoE Japan）

【資料代】 700円（FoE Japan 会員は500円）

【申込】 www.foejapan.org よりお申込ください。
もしくは下記までご連絡ください。

【主催・問合せ】 国際環境 NGO FoE Japan（担当：吉田）

Tel: 03-6907-7217 Fax: 03-6907-7219 Email: softenergy@foejapan.org

【協力】 原発事故子ども被災者支援法市民会議、チェルノブイリ子ども基金、Ourplanet TV、
パルシステム連合会、大竹財団、フリードリヒ・エーベルト財団

メンバー紹介

リュドミラ・マルシュケヴィッチ (ベラルーシ・ミンスク在住、1950 年生まれ)
チェルノブイリから近い、ベラルーシの小さな村 Lepel の出身。原発事故後は、村の全ての住民が強制避難となった。現在は、避難区域からは外されている。中学校で数学教師として働き、健康上の理由で退職後は、市の機関でプログラマーとして数年間従事、現在は退職。1992 年より、ベラルーシの非営利団体「チェルノブイリの子どもたち」にボランティアとして参加。数々の人道的・社会的プロジェクトに携わる。自身も 20 歳の頃から糖尿病を患い、団体の中で「糖尿病と生きる」という子どもたちのためのプロジェクトを開始、ロットヴァイルの団体とも協働して 20 年来活動する。



マリア・プラトコフスカヤ (ミンスク在住、1960 年生まれ)
ベラルーシの東に位置する Polessje 地方出身。チェルノブイリ原発事故の影響を受ける。“チェルノブイリの子供たち”にボランティアとして従事し、病気や障害、経済的困難などを持つ子ども達のための支援活動をコーディネートする。ドイツ語教師としても働き、ロットヴァイルの団体とも協働。趣味としてベラルーシ独自の文化や伝統を守っていくことにも注力し、民謡グループ“Gastinez”でも歌う。



チェルノブイリの子どもたち (ベラルーシ・ミンスク)
1989 年より、子どもたちの保養支援などを行い、現在までにのべ約 15 万人の子どもたちがヨーロッパ各地や北米、日本で保養滞在している。メンバーは多いときで 1000 名、現在は 100 ~ 150 名。原発事故を間接的に経験し、ドイツで勉強・インターンをする 20 代の 4 名も参加。



核の脅威のない世界のための市民団体 (ドイツ・ロットヴァイル)

チェルノブイリ事故直後の 1986 年に結成、1990 年から、ベラルーシの“チェルノブイリの子ども達”の団体と共に活動し、エネルギーをテーマにした若者のためのプロジェクトや、障がい者プロジェクト、糖尿病プロジェクトなどを協働して実施。メンバーはボランティアで、寄付金によって活動する。2013 年、初めて日本からの青年も招き「エネルギーシフト」に関する 3 カ国交流プロジェクトを実施。エネルギーの将来像、再生可能エネルギーなどを議論し、そこから日本訪問のアイデアが生まれた。エネルギー問題などを専攻する学生や BUND (FoE ドイツ) のボランティアスタッフ、再生可能エネルギー企業のスタッフなど 6 名が参加。

Restart Initiative (日独ベラルーシ・ユースアクション)

2013 年夏のロットヴァイルでの日独ベラルーシ若者交流合宿を機に立ち上がった国際ユースネットワーク。今回の来日に際して、福島に願いをこめた折り鶴を届けるアクションを企画。視察内容やイベントについても情報発信を行う。http://restart-initiative.org/

国際環境 NGO FoE Japan

環境団体ネットワーク「Friends of the Earth(FoE)」の日本メンバーとして 1980 年に発足し、気候変動、森林保全、開発金融などに取り組む。3 1 1 後は、福島の問題、原発・エネルギー問題に積極的に取り組む。

その他のプログラムも予定。詳細は、www.foejapan.org へ！